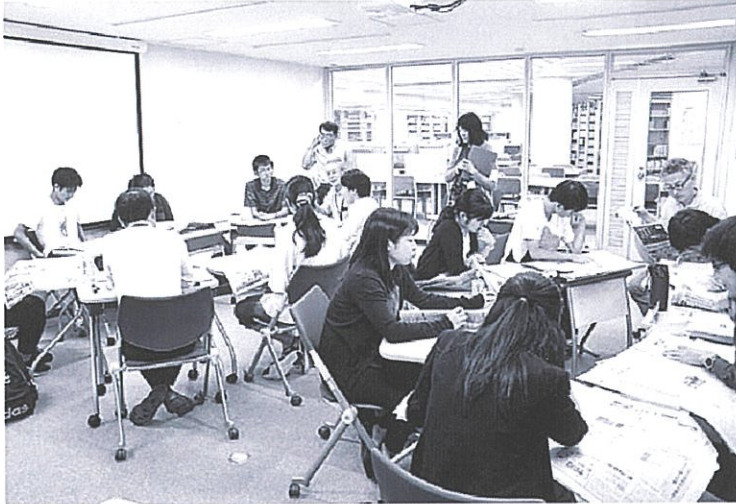


新聞読み意見交換

静岡大と県立大 合同で初「カフェ」



気になる新聞記事について意見を交わす学生
11月28日午後、県立大

静岡大、県立大の学生有志と静岡新聞社は28日、新聞を読みながらニュースへの理解を深める「新聞カフェ」を静岡市駿河区の県立大で開いた。学生計12人が大学の枠を超え、時事問題について自由に意見を交わした。

2大学が合同でカフェを実施するのは今回が初めて。本社読者プロモーション局の社員や本紙記者が、新聞を読むコツや取材手法について説明した後、学生たちが当日の朝刊の中から気になる記事を発表した。

東京五輪に伴うサマ―タイム導入に関する記事に対しては「たった数週間のために社会全体の制度がひっくり返るのはおかしい」「五輪の印象が悪くなる」と否定的な意見が相次いだ。静岡市が使い捨てストローをプラスチック製から紙製に切り替えるように促すという話題は「環境に良い」と賛成する一方、「お金の負担が増えるなら店がかわいそう」「そもそも捨てなければいい」という指摘もあった。

新聞カフェは、2017年4月から各大学で月2〜4回開催している。

(政治部・山下奈津美)